

神戸市立図書館おすすめブックリスト

えほんの小箱

もう少し大きくなったら（3さい～）



神戸市立中央図書館

も く じ

3歳から楽しめる絵本	・・・	1ページ
4・5歳から楽しめる絵本	・・・	4ページ
5・6歳から楽しめる絵本	・・・	9ページ
6歳から楽しめる絵本	・・・	15ページ
むかしばなし絵本	・・・	19ページ
身のまわりのふしぎの絵本	・・・	22ページ
ことばを楽しむ絵本	・・・	23ページ
家族・いのちの絵本	・・・	24ページ
おやすみなさいの絵本	・・・	26ページ
書名索引	・・・	27ページ
人名索引	・・・	29ページ
おわりに	・・・	31ページ

3歳から楽しめる絵本

絵本には「始まり・続き・終わり」があるとわかり、単純なストーリーの全体が楽しめるようになってきます。またこの時期の子供は、想像の世界と現実の世界を行ったり来たりして楽しめます。絵本の主人公たちとさまざまな体験をしてみましょう。

あおくとときいろちゃん

レオ・レオーニ作 藤田圭雄訳
至光社

あおくとときいろちゃんはお友達です。いつのまにかいっしょになって、みどりいろになりました。後で、おとうさんもおかあさんもその理由がわかりました。色だけでお話ができることを教えてくれる楽しい絵本です。



アンガスとあひる

マージョリー・フラック作・絵 瀬田貞二訳
福音館書店

スコッチ・テリアの子犬アンガスは、好奇心いっぱいなのいたずらざかり。2羽のあひると出会って、ゆかいなやりとりが始まります。絵も文もいきいきとして、楽しい絵本です。同じシリーズに『アンガスとねこ』『まいごのアンガス』があります。



きんのたまごのほん

マーガレット・W・ブラウン文 レナード・ワイスガード絵
わたなべしげお訳 童話館出版

ひとりぼっちの小さなうさぎが卵を見つけました。卵の中からは、何かが動いている音がします。何が入っているのか知りたくて、ふってみたり、飛び乗ったり、木の実をぶつけてみますが、卵は割れません。色とりどりの花や植物で飾られた美しい絵本です。



ぐりとぐら

なかがわりえこ文 おおむらゆりこ絵
福音館書店

野ねずみのぐりとぐらは、お料理することと食べることが大好き。森で大きな卵を見つけ、大きな大きなかすてらを作ることにしました。いいにおいに誘われて、森じゅうの動物たちが集まってきます。同シリーズに『ぐりとぐらのおきゃくさま』などがあります。



サムはけっしてわすれません

イブ・ライス文・絵 あきのしょういちろう訳
童話館出版

3時になると、飼育係のサムは動物たちにえさをやります。忘れたことなどありません。動物たちの好きなものをワゴンに積んで、キリン、さる、あざらしと次々にまわります。でも今日はどうだけ何ももらっていません。サムは忘れてしまったのでしょうか。



ちいさなヒッポ

マーシャ・ブラウン作 うちだりきこ訳
偕成社

かばのヒッポは、いつもおかあさんといっしょ。「グググッ! グアオ!」と、かばの言葉を習っています。ところがある日、ヒッポが水面に出て遊び始めたとき、大きなわながすべり寄ってきて、ヒッポのしっぽにがぶりとかみついてきました。



はらぺこあおむし

エリック・カール作 もりひさし訳
偕成社

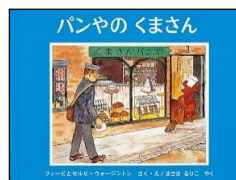
日曜日の朝、あおむしが生まれました。あおむしは、おなかがぺっこぺこ。月曜日、りんごを1つ食べました。火曜日、なしを2つ食べました。やっぱりおなかはぺっこぺこ。水曜日、すももを3つ食べました。それでもおなかはぺっこぺこ。楽しいしかけ絵本です。



パンやのくまさん

フィービとセルビ・ウォージントン作・絵
まさきるりこ訳 福音館書店

パンやのくまさんは、朝早く起きて、かまどに火を入れます。生地を作り、パンやケーキが焼きあがると、半分を店にならべ、半分を車に積み込んで配達します。同じシリーズに『ゆうびんやのくまさん』『うえきやのくまさん』などがあります。



ボランティアさんからひとこと

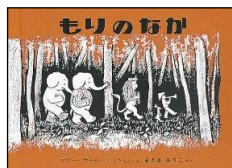
『パンやのくまさん』

くまさんは、とても真面目に働いています。幼い子の生真面目さが共鳴するのか、子供たちも熱心に聞いてくれます。自分もくまさんと一緒に働いているのかもしれない。そして、聞き終わったあとには、くまさんと同じような満足感を感じているようです。

もりのなか

マリー・ホール・エッツ文・絵 まさきりこ訳
福音館書店

紙のぼうしをかぶり、新しいらっぱを持って森へ散歩に出かけたら、ライオン、ゾウ、クマ、カンガルーなど、次々に動物たちがついてきました。男の子と動物たちの楽しいマーチや笑い声が聞こえてきそうです。続編に『またもりへ』があります。



わたしとあそんで

マリー・ホール・エッツ文・絵 よだじゅんいち訳
福音館書店

朝日が昇って、草に露が光る原っぱへ、遊びに行ったわたし。出会った動物に、「あそびましょ」と声をかけますが、みんな逃げていってしまいました。でも音をたてずに、じっとこしかけていると、みんなが次々に戻ってきました。



わたしのワンピース

にしまきかやこ絵・文
こぐま社

空から落ちてきたまっ白なきれで、ミシシカタカタ、うさぎさんがワンピースを作りました。お花畑を歩くと「あれっ ワンピースがはなもようになった」。雨が降ってきたり、草の実の中を歩いたりすると……。次々に模様が変わるすてきなワンピースです。



わにわにのおふろ

小風さち文 山ロマオ絵
福音館書店

ワニのわにわにはお風呂が大好き。おもちゃで遊んだり、石けんのあぶくをとぼしたり、歌もうたったりして、ご機嫌です。ちょっと強面のわにわにですが、幸せそうな表情はとてもユーモラスです。同じシリーズに『わにわにのおでかけ』などがあります。



ボランティアさんと先輩ママさんからひとこと

『わたしとあそんで』

- ・最後にシカが女の子のほっぺたをなめるシーンで、自分のほっぺたをなでる子も。とびはねながら家に帰っていく絵も大好きです。
- ・動物たちに逃げられた時、戻ってきてくれた時の女の子の表情が素晴らしい。読むたびに子供も「泣いてるね」「喜んでるね」と。

4・5歳から楽しめる絵本

この時期の子供は、言葉を理解する力、想像する力がついてきて、物語の世界が一段と楽しめるようになってきます。

子供たちは、主人公の行動と自分を重ね、物語の中の出来事を自分が体験したかのように感じています。特に、主人公が「行って帰る」パターンのお話は彼らの冒険心を刺激し、同時に戻ってきた時の安心感も与えてくれます。

物語性に富んだ絵本をたっぴりと体験することで、子供たちは現実生活においても、とまどいや不安を乗り越えて成長していきます。

ありがとうのえほん

フランソワーズ作 中川千尋訳
偕成社

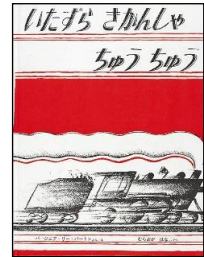
おひさま、きれいなお花、わたしのおうちなど、わたしは、まわりのすべてのものに「ありがとう」と語りかけます。あたたかく優しい絵が「ありがとう」の気持ちを包みこみ、ページをめくるごとに、あらゆる場所、物へとその思いが広がっていきます。



いたずらきかんしゃちゅうちゅう

バージニア・リー・バートン文・絵 むらおかはなこ訳
福音館書店

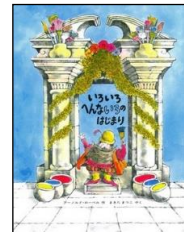
ちゅうちゅうは、黒くて小さくて、ぴかぴか光る蒸気機関車です。ある日、「重い客車なんかひくのはごめんだ。わたしひとりなら、もっともっとはやく走れるんだ」と考えたちゅうちゅうは、たったひとりで走り出しました。丘を越え、町を抜け、スピードをあげて走るちゅうちゅうは、どうなるのでしょうか。



いろいろへんないろのはじまり

アーノルド・ローベル作 まきたまつこ訳
富士房

はじめ、世界には灰色しかありませんでした。その後、青色だけの世界になり、黄色や赤色ばかりのときがあって、最後にいろいろな色が生まれました。なぜなら、魔法使いが地下で……。この世の中に、どうしてもたたくさんの色があるのかという、なぜなぜ話です。



うんちっち

ステファニー・ブレイク作・絵 ふしみみさを訳
あすなろ書房（PHP研究所）

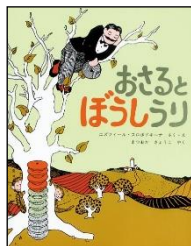
うさぎの子は、何を言われても「うんちっち」としか
言いません。ごはんを食べるときも、お風呂に入ると
きも「うんちっち」。ある日、オオカミがやってきて
聞きました。「ぼうやをたべてもいいかい？」
うさぎの子は、いったい何と答えたと思いますか。



おさるとぼうしうり

エズフィール・スロポドキーナ作・絵
まつおかきょうこ訳 福音館書店

こうしじまの自分のぼうしに、売り物のねずみ色、茶
色、空色、赤色のぼうしを頭の上に高く重ね、ぼうし
売りが町へ行きます。途中、大きな木の下で昼寝をし
て目を覚ますと、木の上のさるたちに、全部のぼうし
を取られていました。さてどうなるでしょう。



かいじゅうたちのいるところ

モーリス・センダック作 じんぐうてるお訳
富士房

ある晩、ぬいぐるみを着て大あばれしたマックスは、
夕飯抜きで寝室にほうりこまれます。すると、部屋に
によきによきと木がはえ、やがてあたりは森になり、
海になりました。マックスは船で海に乗り出し、たど
り着いたのは、かいじゅうたちのいるところでした。



がちょうのペチューニア

ロジャー・デュボワザン作 まつおかきょうこ訳
富士房

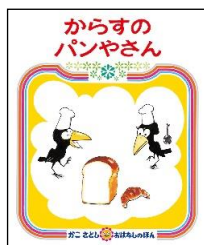
がちょうのペチューニアは、拾った本を大切に持ち歩
いていました。本を持っていると、かしこくなると聞
いたからです。首をつんとのばし、かしこくなったつ
もりで他の動物たちにアドバイスを始めます。続編に
『ペチューニアのクリスマス』などがあります。



からすのパン屋さん

加古里子絵・文
偕成社

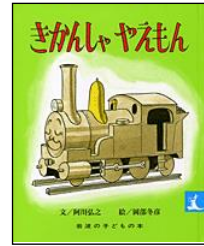
からすの森の街角に、からすのパン屋さんがありまし
た。4羽の赤ちゃんが生まれてから大忙しでしたが、
みんな元気いっぱいになりました。そして、子供たち
も一緒に、ここにしかないパンをたくさん作ります。
からすの表情とおもしろいパンが楽しい1冊です。



きかんしゃやえもん

阿川弘之文 岡部冬彦絵
岩波書店

蒸気機関車のやえもんは長い間働いて、すっかり年をとりました。若いときは大活躍したのに、今は若い電気機関車にはかにされる始末。怒って火の粉をまき散らしながら走るうち、火事をおこしてしまいます。とうとうくず鉄にされることになりましたが……。



くまのコールテンくん

ドン・フリーマン作 まつおかきょうこ訳
偕成社

ぬいぐるみのコールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場で売れ残っていました。服のボタンが1つないからです。ある晩、コールテンくんはボタンを探して夜のデパートを探検します。ボタンは見つかりませんでしたが、次の朝、すてきな出来事が起こりました。



ぐるんぱのようちえん

西内ミナミ作 堀内誠一絵
福音館書店

大きなぞうのぐるんぱは、はりきって働きますが、すぐに「もう、けっこう」と言われてしまいます。何しろ、作るものが大きすぎるのです。しょんぼりしていたぐるんぱが、用がなくなった特大のピアノをひくと、子供たちが集まってきました。



こすずめのぼうけん

ルース・エインズワース作 石井桃子訳 堀内誠一画
福音館書店

はじめて飛び方を教わったこすずめ。飛べたことが嬉しくて、思わず遠くへ出かけてしまいます。疲れたこすずめが羽を休める場所を探しても、他の鳥たちは鳴き方が違うといって巣に入れてくれません。辺りはだんだん暗くなり、こすずめは不安になってきました。



ボランティアさんからひとこと

『くまのコールテンくん』

ボタンを探していたコールテンくんが、ガードマンさんに見つかって連れ戻されると、子供たちもしょんぼり。でも翌朝、女の子がコールテンくんを買ってくれます。家に連れ帰り、ボタンもつけてもらい、抱きしめられるときには、子供たちもうれしそうです。

そらまめくんのベッド

なかやみわ作・絵
福音館書店

そらまめくんの宝物は自分のベッドです。えだまめくんたちが眠ってみたいと言っても「だめ、だめ。」と断っていました。ところがある日、そらまめくんのベッドがなくなってしまうます！同じシリーズに『そらまめくんとめだかのこ』などがあります。



ティッチ

パット・ハッチンス作・絵 いしいもこ訳
福音館書店

ティッチは、3人兄弟の末っ子です。ティッチはどうしても、兄さんや姉さんのする事すべてに、追いつくことができません。しかし最後にどんでん返しがあり、ティッチのくやしきも、吹っ飛んでしまいます。末っ子の気持ちにこたえてくれる絵本です。



でんしゃでいこうでんしゃでかえろう

間瀬なおかた作・絵
ひさかたチャイルド

「やまのえき」を出発した電車は、トンネルをぬけるたびに、雪の野原、鉄橋、海辺の丘と景色を変えて「うみのえき」へ到着します。この絵本は反対側からも読めるので、「うみのえき」から電車に乗って、「やまのえき」へと向かって行くこともできます。



どろんこハリー

ジーン・ジオン文 マーガレット・プロイ・グレアム絵
わたなべしげお訳 福音館書店

ハリーは黒いぶちのある白い犬です。お風呂がきらいで逃げ出し、今ではすっかり真っ黒。とうとう、白いぶちのある黒い犬になってしまいました。家に帰っても、家の人にハリーだと気づいてもらえません。同じシリーズに『うみべのハリー』などがあります。



ねずみくんのチョコッキ

なかえよしを作 上野紀子絵
ポプラ社

ねずみくんのおかあさんが編んでくれたチョコッキは、ねずみくんにぴったり。そこへいろいろな動物たちがやってきて「ちょっときせてよ」と着ていきます。チョコッキはどんどん伸びていって……。チョコッキのお話は、『また!』『またまた!』と続きます。



はじめてのおつかい

筒井頼子作 林明子絵
福音館書店

おつかいを頼まれたみいちゃん。お店に着くまでに、自転車とすれ違ってどきんとしたり、坂道で転んでしまったり。ようやくお店にたどり着きますが、店の中には誰もいません。みいちゃんは、大きな声で「ぎゅうにゅうください」と言おうとしますが……。



はなをくんくん

ルース・クラウス文 マーク・サイモント絵
きじまはじめ訳 福音館書店

雪の中、動物たちは眠っています。やがて、みんなは目を覚ましました。鼻をくんくん。みんながかけ出します。かたつおりは殻をおんぶして、りすは木の中から、やまねずみは地面の中からかけて行きます。そこでみんなが見つけたものは何だったのでしょうか。



バルバルさん

乾栄里子文 西村敏雄絵
福音館書店

バルバルさんは床屋さん。今日は、ライオンがたてがみを切りに来たり、ワニが毛をはやしたいと相談しに来たり、ヒツジがプードルのようにカットしてほしい。バルバルさんはみんなの注文に応えますが、どうして変わったお客ばかり来たのでしょうか。



ひとまねこざる

H・A・レイ文・絵 光吉夏弥訳
岩波書店

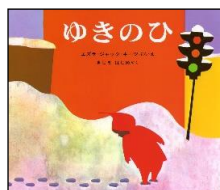
おさるのジョージは、とても知りたがりや。ある日、外がどんなか知りたくて動物園をぬけだします。そんなつもりはないのに、行く先々のレストランやホテルで次々と大騒ぎをひきおこします。同シリーズに『ひとまねこざる』などがあります。



ゆきのひ

エズラ・ジャック・キーツ文・絵 きじまはじめ訳
偕成社

ピーターが朝起きると、雪が積もっていました。外へ飛び出したピーターは、雪の中で、いろいろな遊びをしてみました。おうちに帰ってからも、何をしたか、何回も何回も思い出します。同じシリーズに『ピーターのいす』『ピーターのががみ』などがあります。



5・6歳から楽しめる絵本

この時期の子供たちは、時間の認識ができてきて、絵本の楽しみ方も深まってきます。登場人物の感情もより一層感じ取れるようになります。お話が長くなり、登場人物の数が増えても楽しめるようになります。

あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま

イ ヨンギョン文・絵 かみやにじ訳
福音館書店

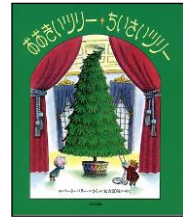
赤いてぬぐいをかぶり、ぬいものが上手な「あかてぬぐいのおくさん」。ある日、おくさんがうたた寝をしている間に、7つのお針道具たちが、ぬいものの一歩役に立っているのは自分だと言ひ合いはじめます。ぬいものに必要なのは、どの道具なのでしょう。



おおきいツリーちいさいツリー

ロバート・パリー作 光吉夏弥訳
大日本図書

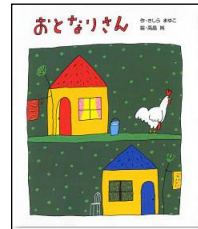
ウィロビーさんのお屋敷に、立派なクリスマスツリーが届きました。天井に先がつかえるので、先っぽを切り落としました。その先っぽをもらったアデレードも先っぽを切り、それはチムが拾いました。こうして、みんながすてきなツリーを手に入れたのです。



おとなりさん

きしらまゆこ作 高島純絵
BL出版

ある日、にわとりの家のとなりに、だれかが引っ越してきました。にわとりはおとなりさんに会いたくてたまらないのですが、おとなりはいつのぞいても留守のようです。そこで、にわとりは手紙を書くことにしました。「あした、うちにあそびにきませんか」



きつねのかみさま

あまんきみこ作 酒井駒子絵
ポプラ社

公園に、なわとびのひもを忘れてしまったりえちゃん。弟のけんちゃんを連れて、ひもを取りに行くと、木にかけておいたはずのひもが見当たりません。近くでこぎつねたちが楽しそうになわとびをしているのを見た2人は、みんなと遊ぶことにしました。



きつねのホイティ

シビル・ウェッタシンハ作 まつおかきょうこ訳
福音館書店

3人のおかみさんたちをまんまとだまし、ごちそうをせしめたきつねのホイティ。実は、おかみさんたちはそんなホイティの正体をとっくに見破っていて、からかってやろうと待ち構えています。スリランカのゆかいなお話です。



くんちゃんはおおいそがし

ドロシー・マリノ作 まさきりこ訳
ペンギン社

くんちゃんは、1人で遊ぶように言われます。そこで、まずは木切れを川に浮かべてみました。すると、きれいな小石やくすみ、はっぱが目にとまり、いろいろな遊びを考えつきます。シリーズに『くんちゃんのはじめてのがっこう』などがあります。



げんきなマドレーヌ

ルドウィヒ・ベーメルマンズ作・画 瀬田貞二訳
福音館書店

パリの古い屋敷に、12人の女の子が暮らしていました。食べるのも寝るのも、散歩するのもいつもいっしょです。ある夜、いちばん小さくて元気なマドレーヌが、盲腸で入院してしまいます。同じシリーズに『マドレーヌといぬ』などがあります。



子リスのアール

ドン・フリーマン作 山下明生訳
BL出版

子リスのアールはある秋の朝、そろそろ自分でドングリを見つけるように、とお母さんに言われます。そう言われてもドングリの見つけ方がわからないアールは、友達で人間の女の子・ジルに相談に行きます。赤いスカーフをした、かわいらしい子リスのお話です。



こんとあき

林明子作
福音館書店

ぬいぐるみのこんは、あきが赤ちゃんのころから、ずっといっしょです。ほころびてきてしまったこんを直してもらうため、あきは、さきゆうまちのおばあちゃんに会いに行きます。道中、こんは「だいじょうぶ、だいじょうぶ」と、けなげにあきを支えます。



サリーのこけももつき

ロバート・マックロスキー文・絵 石井桃子訳
岩波書店

サリーとお母さんは、山へこけももつきに行きました。つんでは食べているうちに、サリーはおかあさんと離れてしまいます。一方、山の反対側ではくまの親子がこけももを食べに来ていました。いつの間にか、サリーはくまのお母さんについて行ってしまいます。



スイミー ちいさなかしこいさかなのはなし

レオ・レオニ作 谷川俊太郎訳
好学社

スイミーは、小さいけれど勇気と知恵のある魚です。一匹を残して大きな魚に仲間を食べられてしまったスイミーは、大きな魚から身を守る方法を見つけ出しました。独特の手法で描かれた海の中は幻想的で、物語の世界へどンドン引き込まれていきます。



すてきな三にんぐみ

トミー・アングラー作 いまえよしと訳
偕成社

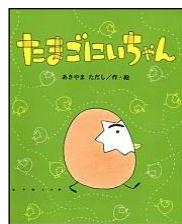
黒いマントに黒いぼうしの、あやしげな三人組。彼らが心を改め、恐ろしい仕事から足を洗ったのは、みなしごのティファニーちゃんのおかげでした。貯めこんだ宝を使い、捨て子やみなし子を育てはじめた三人は、今では「すてきな三にんぐみ」になりました。



たまごにいちゃん

あきやまただし作・絵
鈴木出版

たまごにいちゃんは、本当は卵から出ていないといけません。でも、ずーっと卵のままでいたいと思っていました。だって、お母さんがあたためてくれるからです。同じシリーズに『がんばる！たまごにいちゃん』『からすのたまごにいちゃん』などがあります。



だめよ、デイビッド！

デイビッド・シャノン作 小川仁央訳
評論社

デイビッドのママはいつも言います。「だめよ、デイビッド！」。だめと言うことばかりするデイビッドは小さなモンスターみたい。でも本当は、まだまだママに甘えたい、小さな男の子なのです。いたずらが過ぎて涙をこぼすと、やさしいママの胸にとびこみます。



チムとゆうかなせんちょうさん

エドワード・アーディゾーニ作 せたていじ訳
福音館書店

チムは、船乗りになりたい男の子。ある日、停泊中の汽船に乗り込んだチムは、そのまま密航することになりました。しかし、すぐに船員たちに見つかり、彼らの手伝いをしながら旅を続けます。同じシリーズに『チムとルーシーとかいぞく』などがあります。



根っこのこどもたち目をさます

S・V・オルファース絵 H・D・フィッシュ文
いしいもこ訳・編 童話館出版

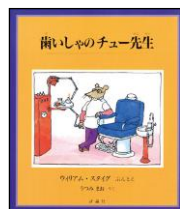
春が近づくと、土のおかあさんが根っこの子供たちを起こしてまわります。女の子たちは色とりどりのきれいで服を作り、男の子たちは虫たちの体に春の色を塗ってやります。愛らしい子供たちの姿と、季節のめぐる様子が美しく描かれています。



歯いしゃのチュー先生

ウィリアム・スタイグ文・絵 うつみまお訳
評論社

歯医者者のチュー先生はとても腕利きで、大きな患者にも大人気。でも先生はねずみなので、危険な動物の診察はお断りしています。ある日、ほっぺを包帯でぐるぐる巻きにしたキツネがやって来ます。続編に『ねずみの歯いしゃさんアフリカへいく』があります。



はちうえはぼくにまかせて

ジーン・ジオン作 マーガレット・ブロイ・グレアム絵
もりひさし訳 ペンギン社

夏休み、どこへも行かないトミーは、旅行する人のはち植えを預かることにします。家の中は、台所も風呂場もジャングルのようになり、お父さんのきげんも悪くなりました。ある晩トミーは、預かった植物がぐんぐん大きくなり、家が壊れる夢をみます。



ボランティアさんからひとこと

『チムとゆうかなせんちょうさん』

読んだあと、小学3年生の男の子がまじめな様子で「こんな本を読みたかった。ココアが飲みたい」と言っていました。

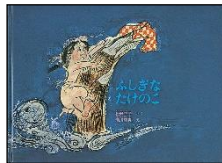
『歯いしゃのチュー先生』

子供たちはずるいキツネを負かすチュー先生を、かたずをのんで見守ります。

ふしぎなたけのこ

松野正子作 瀬川康男絵
福音館書店

たろは、たけのこ掘りに行きました。たろが着物をかけたたけのこがぐんぐん伸びて、その先につかまったたろは、はるか空高くへ。村人たちはたろを助けようとたけのこを切り倒し、それにそって走り出します。さて、たどりついたのはどこだったのでしょうか。



まゆとおに やまんばのむすめまゆのおはなし

富安陽子文 降矢なな絵
福音館書店

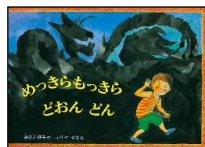
やまんばのむすめ・まゆは、山で鬼に会いました。鬼はまゆを煮て食べようと思いつき、まゆを自分の家へ連れて帰ります。何も知らないまゆは薪の山を作り、かまどの石を積み、鬼の手伝いをします。まゆをだまそうとする鬼とまゆとのやりとりがゆかいです。



めっきらもっきらどおんどん

長谷川摂子作 ふりやなな画
福音館書店

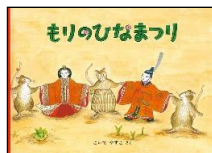
神社まで出かけたのに、遊ぶ友だちが見つからないかんだ。怒って「めっきらもっきら どおんどん」と、めちゃくちゃな歌を歌うと、近くの木の下から奇妙な声が出て、穴の中へ吸い込まれてしまいました。たどり着いた夜の世界で、かんだが出会ったのは……。



もりのひなまつり

こいでやすこ作
福音館書店

小さな森の近くに住んでいるねずみばあさんへ、のねずみ子ども会から手紙が届きました。森のひなまつりに、ねずみばあさんの家にある、おひなさまたちを連れてきてほしい、というのです。おひなさまたちは森へ出かけたいと言うけれど、家の人気づかれずに戻ることはできるのでしょうか。



ボランティアさんからひとこと

『まゆとおに』

岩を投げ飛ばすまゆに、思わず「すげーっ！」と言う男の子。まゆとお母さんやまんばの豪快さに、読み終わった時にすかっとした気分になります。

ゆき！ゆき！ゆき！

オリヴィエ・ダンレイ作 たなかまや訳
評論社

雪の夜、ママは毛皮でくるんだぼうやを抱いて、外へ出ました。ぼうやに雪のにおい、雪の音、雪の味を教えたいからです。雪でトロールを作って、そりで丘をすべります。やがて、もうおやすみの時間です。ぞんぶんに雪を楽しんだ二人は、暖かい部屋に戻ります。静かな冬の夜に読みたい本です。



ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ文・絵 とくながやすもと訳
福音館書店

弱虫なラチは、いつも一人ぼっちです。でもある日、赤いちっちゃなライオンがあらわれて、ラチを強くしてやると言います。ラチはライオンのおかげで怖いイヌも暗い部屋もへっちゃらになり、いじわるなノッポもやっつけてしまいました。一方、約束を果たしたライオンは、旅に出ます。



図書館員からひとこと

『ラチとらいおん』

ラチが「世界でいちばんのよわむし」と紹介されるところで、聞いていた男の子たちが、びっくりと反応。犬が怖いとか暗い部屋が怖いとか、身に覚えのあることばかりで、ラチに、ぐっと入り込みます。読み終わったあとは、みんな、らいおんが欲しそうで、本を借りて帰ったのも男の子でした。

6歳から楽しめる絵本

絵の力をあまり借りなくても、長いお話を楽しめるようになってきます。「もう自分で読みなさい」と言いたくなるかもしれませんが、お子さんが「読んで」と持ってきたら、まだまだ読んであげてください。

そのウサギはエミリー・ブラウンのっ!

C・コーウェル文 N・レイトン絵 まつかわまゆみ訳
評論社

エミリー・ブラウンは、スタンリーという灰色のウサギのぬいぐるみが大好き。2人はいつも一緒でした。ところが、女王陛下がスタンリーを気に入ってしまい、陸軍・海軍・空軍に特殊部隊まで派遣して、スタンリーを手に入れようとしています。



かさどろぼう

シビル・ウェッタシンハ作・絵 猪熊葉子訳
徳間書店

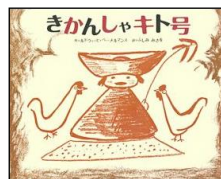
キリ・ママおじさんは、生まれて初めて出かけた町で、かさをさしている人たちを見ます。「なんてきれいで便利なものだろう」と買って帰る途中、かさを盗まれてしまいます。その後、何度買い直しても盗まれてしまいます。盗んだのは誰だったのでしょうか。



きかんしゃキト号

ルドウィッヒ・ベーメルマンズ作 ふしみみさを訳
BL出版

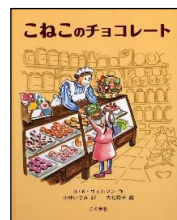
特急キト号はアンデスの山をかけおり、ジャングルをぬけて、海まで走ります。「ダダダダ!」としか言えない小さなペドロは、そんなキト号を見るのが大好き。ある日、キト号にこっそり乗り込んだペドロは、終点でキト号の車掌さんたちに保護されます。



こねこのチョコレート

B・K・ウィルソン作 小林いづみ訳 大社玲子絵
こぐま社

ジェニーはお母さんと、弟のクリストファーの誕生日プレゼントを買いに行きました。お母さんはおもちゃを、ジェニーはこねこのチョコレートを買います。その夜、チョコレートが気になって眠れなくなったジェニーは、こっそり1つ食べることにしました。



旅するベッド

ジョン・バーニング作 長田弘訳

ほるぷ出版

お父さんと新しいベッドを買いに行く途中、ジョージは古道具屋を見つけます。そのお店には、古くて小さいベッドがありました。それはなんと「どこへでも旅ができる」特別なベッドでした。ジョージは夜、ベッドに乗っているいろいろな場所へ行きます。



ちいさいおうち

バージニア・リー・バートン文・絵 いしいももこ訳

岩波書店

昔、いなかにかいさいおうちがありました。小さいおうちは豊かな自然に囲まれ、幸せでした。ところが、馬車が消えて自動車ができるようになると、道路や建物の建設が始まります。開発の波が押し寄せるおうちに、思いがけないハッピーエンドが待っています。

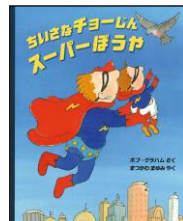


ちいさなチョーじんスーパーぼうや

ボブ・グラハム作 まつかわまゆみ訳

評論社

マックスは、偉大なチョーじん・カミナリとうさんとイカズチかあさんの子供です。学校に通うようになって、ちっとも飛ぶことができないマックスを、家族も友達も不思議がっています。そんなある日、マックスは巣から落ちそうな鳥を見つけました。



としかんライオン

ミシェル・ヌードセン作 ケビン・ホークス絵

福本友美子訳 岩崎書店

町の図書館に、大きなライオンがやってきました。みんなは驚きますが、メリーウエザー館長は、おぎょうぎよく静かにできるなら図書館にきていいですよ、とライオンに言います。そこで、ライオンは図書館へ毎日やってきて、町の人々とも仲よしになりました。



どんなにきみがすきだかあててごらん

サム・マクプラットニイ文 アニタ・ジェラーム絵

小川仁央訳 評論社

小さなウサギが、大きなウサギにこう聞きました。「どんなにきみがすきだかあててごらん」。2匹はそれぞれ「すき」という気持ちを、背のびやジャンプで表現します。「おつきさまにとどくくらいきみがすき」という言葉に、あたたかな気持ちが広がります。



はじめましてねこのジンジャー

シャーロット・ヴォーク作 小島希里訳
偕成社

庭のすみっこに、お腹をすかせたこねこが住んでいました。ある日こねこは、草むらの中にえさを見つけます。それは、テレサという女の子が置いたものでした。毎日えさをくれるテレサは、こねこにジンジャーという名前をつけてくれます。ジンジャーとテレサのすてきな出会いが描かれています。



ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ作 せたていじ訳
評論社

ロバのシルベスターは、さわって願いごとを言えば、願いがかなう小石を見つけます。その後ライオンに出会ったとき「ぼくはいわになりたい」と言ったため、岩になってしまいます。小石はシルベスターから離れた場所に落ちていて、さわることができません。シルベスターはどうになってしまうのでしょうか。



ボランティアさんからひとこと

『ロバのシルベスターとまほうの小石』

- ・シルベスターがなかなか元に戻れなくて、はらはらしている子供ほど、結末の安心感は大きいようです。教室で読むと、ラストでほっとした雰囲気に包まれます。
- ・感動のラストまで、ぐいぐいとひっぱってくれるお話です。

図書館員から「ほかにもあるよ、こんな本」

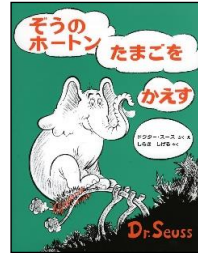
- 『ペレのあたらしいふく』
エルサ・ベスコフ作・絵 おのぞらゆりこ訳（福音館書店）
- 『トラのじゅうたんになりたかったトラ』
ジェラルド・ローズ文・絵 ふしみみさを訳（岩波書店）
- 『ゼラルダと人喰い鬼』トミー・ウンゲラー作
たむらりゆういち、あそうくみ訳（評論社）
- 『ゆうかんなアイリーン』
ウィリアム・スタイグ作 おがわえつこ訳（セーラー出版）

～もう少し大きい子へ～

ぞうのホートンたまごをかえす

ドクター・スース作・絵 しらきしげる訳
偕成社

なまけどりのメイジーは、卵を温めるのが嫌になり、近くを通ったぞうのホートンに、むりやり代役を頼みます。約束をはたすため、暑さや寒さ、そしてさまざまな危険から卵を守るホートン。ついに卵がかえると、信じられないことが起こります。同シリーズに『ぞうのホートンひとだすけ』があります。



ともだちや

内田麟太郎作 降矢なな絵
偕成社

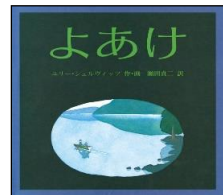
さびしがりのキツネが「ともだちや」を始めました。「ともだち いちじかん ひやくえん」と声をはり上げ、森の中を歩きまわります。そんなキツネに、ウズラ、クマ、オオカミから声がかかります。同じシリーズに『あしたのともだち』『ともだちくるかな』などがあります。



よあけ

ユリー・シュルヴィッツ作・画 瀬田貞二訳
福音館書店

音もなく、静まりかえった湖の木の下に、おじさんと孫が毛布にくるまり寝ています。しだいに夜が明けて、2人の周囲が明るくなっていきます。静かな時の流れが、ページをめくるたびに伝わってきます。段々と色づいていく自然の美しさを感じられる一冊です。



ボランティアさんからひとこと

『ぞうのホートンたまごをかえす』

正直者のホートンに寄りそった子供たちは、「ぞうどり」の出現に驚きながらも、満足そうでした。

むかしばなし絵本

昔話は人間が長い間、語りついできたものです。もともと耳で聞くお話であるため文章はシンプルで、聞き手がイメージを形作れるよう一つ一つの言葉が明確です。昔話のシンプルさは子供たちにとっても理解しやすく、聞き終わった後の満足感も大きいのです。

有名な昔話は、たくさんの出版社によって絵本化されています。選ぶ時は、元の話に大きく手をいれていないか、さし絵はその昔話の雰囲気を伝えているか、などに注意してください。

※書名の後ろに（★）が付いているものは、4～5歳以上向けです。

おおかみと七ひきのこやぎ／グリム童話

フェリクス・ホフマン絵 せたていじ訳
福音館書店

「しわがれ声と足の黒いおおかみにくれぐれも気をつけて」と、お母さんやぎは出かけます。でも、子やぎたちはおおかみが声を変えたり、足を白く塗っていたりしたのでおおかみだと分からず、未っ子をのぞいて皆食べられてしまいます。帰ってきたお母さんやぎと未っ子やぎは、力を合わせてみんなを助けます。



おおきなかぶ／ロシア民話

A・トルストイ再話 内田莉莎子訳 佐藤忠良画
福音館書店

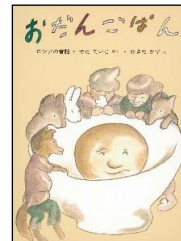
うんとこしょ、どっこいしょ。おじいさん、おばあさん、女の子、犬やねこ、ねずみまで飛び出して、力を合わせて大きなかぶをひっこ抜きます。やっとのことで抜けたのは、画面からはみ出すほどの大きなかぶ。収穫の喜びが伝わってきます。



おだんごばん／ロシア民話

せたていじ訳 わきたかず絵
福音館書店

おばあさんが、おだんごばんを作りました。窓辺で冷まされているのが寂しくなったおだんごばんは、通りに飛び出し転がっていきます。途中、うさぎやおおかみ、くまに食べられそうになりますが、歌を歌ってうまく逃げ出します。しかし、きつねにはこの歌が効かないようです。



かにおかし (★)

木下順二文 清水崑絵
岩波書店

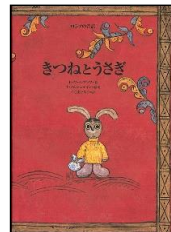
昔々、柿のたねを拾ったかには、庭にまいて「はよう芽をだせ、かきのたね」と毎日せっせと水やこやしをやりました。やっと柿の実が実りましたが、かには取れません。そこへ、山からさるがやって来て、代わりに取ってやろうと木のてっぺんにかけて上ります。



きつねとうさぎ／ロシアの昔話

F・ヤールブソフ絵 Y・ノルシュテイン構成
こじまひろこ訳 福音館書店

きつねは氷の家に、うさぎは木の皮の家に住んでいました。春になって暖かくなると、きつねの氷の家が溶けてしまいます。そこできつねは「ちょっと、入れておくれ」とうさぎの家に入り込み、おりやりうさぎを追い出してしまいました。



三びきのやぎのがらがらどん／北欧民話

マーシャ・ブラウン絵 せたていじ訳
福音館書店

三匹のやぎたちの名前は、どれも「がらがらどん」。あるとき、山の草場で太ろうと、山を登って行きました。しかし、途中の谷川にかかる橋の下には、気味の悪い大きなトロールが住んでいます。がらがらどんたちは、うまく渡ることができるのでしょうか。



ずいとんさん

日野十成再話 斎藤隆夫絵
福音館書店

山寺に、ずいとんという名前の小僧さんがいました。和尚さんに留守を頼まれてお経をあげていると、「ずーいとん、ずーいとん」と台所から呼ぶ声がします。戸を開けてみると誰もいません。さあ、ずいとんさんといたずらぎつねの知恵比べが始まります。



だいくとおにろく

松居直再話 赤羽末吉画
福音館書店

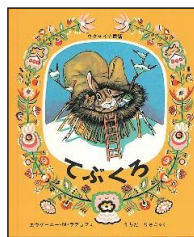
とても流れが速く、何度橋をかけてもたちまち流れてしまう、大きな川がありました。名高い大工が橋かけを頼まれますが、あまりの速さに困ってしまいます。すると川の中から大きな鬼が現れ、代わりに橋をかけてやろうと言いました。



てぶくろ／ウクライナ民話

エウゲーニー・M・ラチョフ絵 うちだりさこ訳
福音館書店

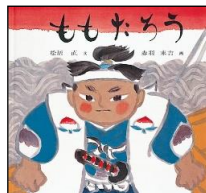
おじいさんが森で、片方のてぶくろを落としました。それを見つけたねずみが、てぶくろにもぐりこむと、次々に「入れて」と動物たちがやって来ます。てぶくろはそのたびに、大きくなっていきます。雪の舞う森の中で、不思議な光景がくり広げられていきます。



ももたろう

まついただし文 あかばすえきち絵
福音館書店

桃から生まれたももたろうは、力持ちで何とも賢い子に育ちました。ある日、村へ来て悪さばかりする鬼を、退治しようと決心します。きびだんごを持って、犬、さる、きじをお供に、鬼ヶ島で大活躍。無事、お姫様を救い出します。



ボランティアさんからひとこと

『おだんごばん』

おだんごばんが調子にのって、きつねの舌べろの上に乗ったとたん、ぱくん！子供たちは一瞬体を縮め、「あーあ」というため息をつきました。

『てぶくろ』

- ・子供の頃、狭いてぶくろの中にみんなと一緒にぎゅーっと入っている安心感が好きでした。
- ・ある男の子は「くまが入っている絵がない」と言って、ページとページの間をさらにめくろうとしていました。よっぽど見たかったのですね。

図書館員から「ほかにもあるよ、こんな本」

- 『おそばのくきはなぜあかい』 石井桃子文 初山滋絵 (岩波書店)
- 『金のがちょうのほん：四つのおかしばなし』 (★)
レズリー・ブルック文・画 瀬田貞二、松瀬七織訳 (福音館書店)
- 『ふしぎなたいこ』 石井桃子文 清水崑絵 (岩波書店)
- 『やまなしもぎ』 平野直再話 太田大八画 (福音館書店)

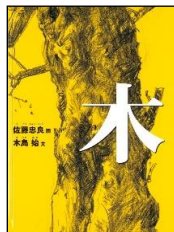
身のまわりのふしぎの絵本

子供にとっては、身のまわりのさまざまなことが不思議の連続です。ここにあげた絵本は、不思議を解明するのではなく、子供と一緒に、その不思議を楽しむ絵本です。大人の方も、子供の感性で味わってください。

木

佐藤忠良画 木島始文
福音館書店

大きな木をスケッチしてみましょう。木のねっこ、木のこぶ、木の芽、それぞれがいろいろな話を聞かせてくれます。風のそよぎや若葉の緑など、自然の美しさをじっくりと、絵と言葉で味わってください。



しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ作 ポフダン・ブテンコ絵
うちだりさこ訳 福音館書店

ある日、バケツから飛び出した水のしずくは、長い旅に出ます。汚れたり、蒸発したり、雨になったり、岩の間で凍ったり、水道管にも入ってしまいます。しずくと一緒に冒険しながら、気温や場所によって変化していく、水のおもしろさに出合える化学絵本です。



ジルベルトとかぜ

マリー・ホール・エッツ作 たなべいす訳
富山房

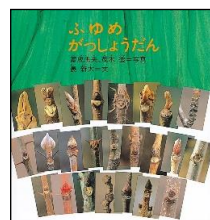
ジルベルトは、風と遊びます。風はジルベルトの持つ風船や傘を取ろうとしたり、風車をまわしたり、シャボン玉を飛ばしてくれたりします。りんごの木の下で待っているといつでも1つ落としてくれます。日常生活の中の風が存在を、楽しく感じさせてくれます。



ふゆめがっしょうだん

富成忠夫、茂木透写真 長新太文
福音館書店

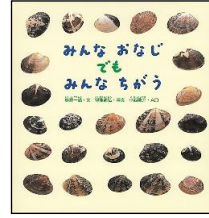
まるで人間の顔や動物の顔のように見える「ふゆめ」（木の芽の冬姿）の写真絵本です。春を待つ木々の営みのすばらしさは芸術的です。外に出て、ふゆめを探してみたいくなります。



みんなおなじでも みんなちがう

奥井一満文 得能通弘写真 小西啓介AD
福音館書店

アサリやヒマワリの種、クワガタムシなど同じ種類の生きものが、見開きページいっぱい広がっています。どれも同じ種類ですが、よく見ると大きさや色、形が違います。「どこが違うのかな」と一つ一つ見ていくうちに、どんどん楽しくなってきます。



ことばを楽しむ絵本

子供は、リズムがあって楽しい言葉を聞くと、すぐに覚えてしまいます。親子で声を合わせて、楽しんでください。

あっちゃんあがつく たべものあいうえお

みねよう原案 さいとうしのぶ作
リーブル

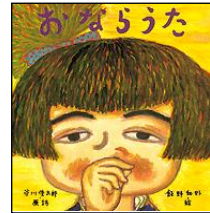
あっちゃん「あ」がつく食べもの、ななに？ そう、あいすくりーむ！ じゃあ、いっちゃん「い」がつく食べものななに？ 「あいうえお」のつく食べものが、リズムカルな言葉によって、次々と元気いっぱいに登場します。



おならうた

谷川俊太郎原詩 飯野和好絵
絵本館

「いもくって、ぶ」「くりくって、ぼ」「あるいて、び」「すかして、へ」。ページをめくるたびにおならの場面が次々と変わります。食べても、歩いても、笑ってもおならは出ます。ぱ、ぴ、ぴよ、び、べ、と声に出してみると、音のおもしろさが楽しめます。



くまくん

二宮由紀子作 あべ弘士絵
ひかりのくに

くまくんは逆立ちをして考えました。「あれ？もしかして、ぼく、いま、さかさまになってるから“くま”じゃなくて“まく”なんじゃない？」他にも“りす”が“すり”になったり、“とら”が“らと”になったりします。さかさま言葉遊びが楽しい絵本です。



家族・いのちの絵本

子供にとって、家族の誕生や別れ・死は大事件であり、なかなか理解できないことです。日常の言葉では伝えにくいことを「物語」として、絵本とともに差し出すことで、子供の心の奥に届くことがあるかもしれません。※書名の後ろに（★）が付いているものは、4～5歳以上向けです。

おじいちゃんがおばけになったわけ（★）

キム・フォップス・オーカソン文 エヴァ・エリクソン絵
菱木晃子訳 あすなろ書房

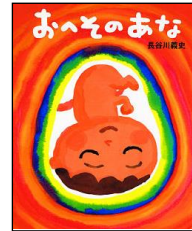
死んだおじいちゃんが、エリックのところへやってきました。この世で何か忘れものをしたというのです。それから二人は、毎晩その忘れものを探しにでかけます。身近な人との悲しい別れを受け止め、やがてあたたかな気持ちに変えてくれる絵本です。



おへそのあな

長谷川義史作
BL出版

赤ちゃんが、お母さんのおへそのあなから、家の中の様子をのぞいています。見える見える。赤ちゃんのために、おにいちゃんがロボットを作っています。おねえちゃんがお花を育てています。家族みんなが赤ちゃんが生まれてくるのを待ちのぞんでいます。



ずーっとずっとだいすきだよ

ハンス・ウィルヘルム絵・文 久山太市訳
評論社

ぼくと犬のエルフィーは、いっしょに大きくなりました。エルフィーは「だいすきだよ」という思いを、言葉にして伝えることの大切さを教えてくれます。かけがえのない命のいとおしさが、淡い色彩と静かな文章からやさしく伝わってきます。



ボランティアさんからひとこと

『すえっこおおかみ』

表紙のおとうさんおおかみを見て怖がっていた女の子が、あとで「ちっとも、こわくなかった」と一言。

すえっこおおかみ

ラリー・デーン・ブリーマン
ホセ・アルエゴ、アリアヌ・デュイ絵
まさきりこ訳 あすなろ書房

すえっこおおかみは、お兄ちゃんやお姉ちゃんのように高くとびあがったり、風のように速く走ったりできないので、大きな木の陰に隠れていました。でもお父さんに「今のままでいい。できるようになるのは、大きくなってから」と言われ、安心します。



ピッツアぼうや

ウィリアム・スタイグ作 木坂涼訳
らんか社（セーラー出版）

雨がふって外で遊べないピートは、ごきげんななめ。そんなピートを見たお父さんに、すてきなアイデアがうかびます。それはなんと、ピートでピッツアを作ることだったのです。そんなことができるでしょうか？親子の様子が、ユーモアたっぷりに描かれています。



ボランティアさんからひとこと

『ピッツアぼうや』

ふれあい遊びの楽しさやくすぐったさに覚えのある子供たちは、うれしそうに聞いています。

図書館員から「ほかにもあるよ、こんな本」

- 『おかあさん、げんきですか。』（★）
後藤竜二作 武田美穂絵（ポプラ社）
- 『ぼくのかわいくないもうと』（★） 浜田桂子作（ポプラ社）
- 『パパはジョニーっていうんだ』（★）
ポー・R・ホルムベルイ作 エヴァ・エリクソン絵
ひしきあきらこ訳（BL出版）

おやすみなさいの絵本

なかなか寝ようとしないうちの子供には、古今東西、たくさんの親が手を焼いてきました。そのおかげで、いろいろな「おやすみなさいの絵本」が出版されています。「この絵本を読み終わったら、ねんねだよ」というものが、見つかりますように。

おやすみなさいフランス

ラッセル・ホーバン文 ガース・ウィリアムズ絵
まつおかきょうこ訳 福音館書店

あらいぐまの女の子フランスは、7時にベッドに入ります。でも、なかなか眠れません。何かと理由をつけて起きてきます。そのたびにお父さんたちはフランスをなだめるのですが、ちっとも眠くなりません。シリーズに『ジャムつきパンとフランス』などがあります。



こわがりのかえるぼうや

キティ・クローザー作・絵 平岡敦訳
徳間書店

かえるのジェロームは、暗いところで一人で眠るのが、怖くてたまりません。一人になったとたん、ベッドの下から、ザクザク、ゴソゴソ、キキキッ、パチャ！という音が聞こえてくるのです。パパとジェロームは、ふたりで音の正体を確かめに行くことにしました。



ねむいねむいおはなし

ユリ・シュルヴィッツ作 さくまゆみこ訳
あすなろ書房

ねむいねむい夜、ねむいねむいおうちでおきた、すてきなできごと。ほら、お月さまもお家も、テーブルやイス、壁の絵、お皿まで、みんなねむい顔をしていますよ。「ねむい、ねむい」のひびきが心地よい、おやすみ前にぴったりの絵本です。



書名索引

ア		くんちゃんはおおいそがし	10
あおくんときいろちゃん	1	げんきなマドレーヌ	10
あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま	9	こすずめのぼうけん	6
あっちゃんあがつく	23	こねこのチョコレート	15
ありがとうのえほん	4	子リスのアール	10
アンガスとあひる	1	こわがりのかえるぼうや	26
いたずらきかんしゃちゅうちゅう	4	こんとあき	10
	4		
うんちっち	5	サ	
おおかみと七ひきのこやぎ	19	サムはけっしてわすれません	2
おおきいツリーちいさいツリー	9	サリーのこけももつみ	11
おおきなかぶ	19	三びきのやぎのがらがらどん	20
おさるとぼうしうり	5	しずくのぼうけん	22
おじいちゃんがおばけになったわけ	24	ジルベルトとかぜ	22
おだんごばん	19	ずいとんさん	20
おとなりさん	9	スイミー	11
おならうた	23	ずーっとずっとだいすきだよ	24
おへそのあな	24	すえっこおおかみ	25
おやすみなさいフランス	26	すてきな三にんぐみ	11
		ぞうのホートンたまごをかえす	18
		そのウサギはエミリー・ブラウンのっ!	15
		そらまめくんのベッド	7
カ		タ	
かいじゅうたちのいるところ	5	だいくとおにろく	20
かさどろぼう	15	旅するベッド	16
がちょうのペチューニア	5	たまごにいちゃん	11
かにむかし	20	だめよ、デイビッド!	11
からすのパンやさん	5	ちいさいおうち	16
木	22	ちいさなチョーじんスーパーぼうや	16
きかんしゃキト号	15	ちいさなヒッポ	2
きかんしゃやえもん	6	チムとゆうかんなせんちょうさん	12
きつねとうさぎ	20	ティッチ	7
きつねのかみさま	9	てぶくろ	21
きつねのホイティ	10	でんしゃでいこうでんしゃでかえろう	7
きんのだまごのほん	1	としよかんライオン	16
くまくん	23	ともだちや	18
くまのコールテンくん	6		
ぐりとぐら	1		
ぐるんぱのようちえん	6		

書名索引続き

どろんこハリー	7	ロバのシルベスターとまほうの小石	17
どんなにきみがすきだかあててごらん	16		

ナ

ねずみくんのチョッキ	7
根っこのこどもたち目をさます	12
ねむいねむいおはなし	26

ハ

歯いしゃのチュー先生	12
はじめてのおつかい	8
はじめましてねこのジンジャー	17
はちうえはぼくにまかせて	12
はなをくんくん	8
はらぺこあおむし	2
バルバルさん	8
パンやのくまさん	2
ピッツァぼうや	25
ひとまねこざる	8
ふしぎなたけのこ	13
ふゆめがっしょうだん	22

マ

まゆとおに	13
みんなおなじでもみんなちがう	23
めっきらもっきらどおんどん	13
ももたろう	21
もりのなか	3
もりのひなまつり	13

ヤ

ゆき！ゆき！ゆき！	14
ゆきのひ	8
よあけ	18

ラ

ラチとらいおん	14
---------	----

ワ

わたしとあそんで	3
わたしのワンピース	3
わにわにのおふる	3

人名索引

ア		グレアム、マーガレット・ブロイ	7,12
アーディゾーニ、エドワード	12	クローザー、キティ	26
赤羽末吉 (あかばすえきち)	20,21	こいでやすこ	13
阿川弘之	6	コーウェル、C	15
あきのしょういちろう	2	小風さち	3
あきやまただし	11	小島希里	17
あべ弘士	23	こじまひろこ	20
	9	小西啓介	23
アルエゴ、ホセ	25	小林いづみ	15
アングラー (ウンゲラー)、トミー	11	サ	
イ、ヨンギョン	9	さいとうしのぶ	23
飯野和好	23	斎藤隆夫	20
石井桃子 (いしいももこ)	6,11,12,16	サイモント、マーク	8
乾栄里子	8	酒井駒子	9
猪熊葉子	15	さくまゆみこ	26
いまえよしとも	11	佐藤忠良	19,22
ウイリアムズ、ガス	26	ジェラーム、アニタ	16
ウィルソン、B・K	15	ジオン、ジーン	7,12
ウィルヘルム、ハンス	24	清水崑	20
ウエッタシンハ、シビル	10,15	シャノン、デイビッド	11
上野紀子	7	シュルヴィッツ、ユリ (ユリー)	18,26
ヴォーク、シャーロット	17	しらきしげる	18
ウォージントン、セルビ	2	じんぐうてるお	5
ウォージントン、フィービ	2	スース、ドクター	18
内田莉莎子 (うちだりさこ)	2,19,21,22	スタイグ、ウィリアム	12,17,25
内田麟太郎	18	スロポドキーナ、エズフィール	5
うつみまお	12	瀬川康男	13
エインズワース、ルース	6	瀬田貞二 (せたていじ)	1,10,12,17
エッツ、マリー・ホール	3,22		18,19,20
エリクソン、エヴァ	24	センダック、モーリス	5
オーカソン、キム・フォップス	24	タ	
大社玲子	15	高島純	9
おおむらゆりこ	1	たなかまや	14
岡部冬彦	6	たなべいすず	22
小川仁央	11,16	谷川俊太郎 (たにかわしゅんたろう)	11,23
奥井一満	23	ダンレイ、オリヴィエ	14
長田弘	16	長新太	22
オルファース、S・V	12	筒井頼子	8
カ		デューイ、アリアンヌ	25
カール、エリック	2	デュボワザン、ロジャー	5
加古里子	5	テルリコフスカ、マリア	22
かみやにじ	9	とくながやすもと	14
キーツ、エズラ・ジャック	8	得能通弘	23
木坂涼	25	富成忠夫	22
木島始 (きじまはじめ)	8,22	富安陽子	13
きしらまゆこ	9	トルストイ、A	19
木下順二	20		
クラウス、ルース	8		
グラハム、ボブ	16		

人名索引続き

ナ		まつおかきょうこ	5,6,10,26
なかえよしを	7	まつかわまゆみ	16
中川千尋 (なかがわちひろ)	4	マックロスキー、ロバート	11
なかがわりえこ	1	松野正子	13
なかやみわ	7	マリノ、ドロシー	10
西内みなみ	6	光吉夏弥	8,9
にしまさかやこ	3	みねよう	23
	8	むらおかはなこ	4
二宮由紀子	23	茂木透	22
ヌードセン、ミシェル	16	もりひさし	2,12
ノルシュテイン、Y	20		
ハ		ヤ	
バートン、バー吉ニア・リー	4,16	ヤールブソフ、F	20
バーニンガム、ジョン	16	山ロマオ	3
長谷川撰子	13	山下明生	10
長谷川義史	24	よだじゅんいち	3
ハッチンス、パット	7	ラ	
林明子	8,10	ライス、イブ	2
バリー、ロバート	9	ラチョフ、エウゲーニー・M	21
久山太市	24	レイ、H・A	8
菱木晃子	24	レイトン、N	15
日野十成	20	レオーニ (レオニ)、レオ	1,11
平岡敦	26	ローベル、アーノルド	4
フィッシュ、H・D	12	ワ	
福本友美子	16	ワイスガード、レナード	1
藤田圭雄	1	わきたかず	19
ふしみみさを	5,15	わたなべしげお	1,7
ブテンコ、ポフダン	22		
ブラウン、マーガレット・W	1		
ブラウン、マーシャ	2,20		
フラック、マージョリー	1		
フランソワーズ	4		
フリーマン、ドン	6,10		
ブリマー、ラリー・デーン	25		
降矢なな (ふりやなな)	13,18		
ブレイク、ステファニー	5		
ベーメルマンズ、ルドウィッヒ	10,15		
ベロニカ、マレーク	14		
ホークス、ケビン	16		
ホーバン、ラッセル	26		
ホフマン、フェリクス	19		
堀内誠一	6		
マ			
まきたまつこ	4		
マクブラットニイ、サム	16		
まさきりこ	2,3,10,24		
間瀬なおかた	7		
松居直 (まつただし)	20,21		

おわりに

子供たちは、本を読んでもらうことが大好きです。読み聞かせの効果について、メディアで取り上げられることが多くありますが、まずは、お子さんの楽しみや喜びのために読んであげてください。それはやがて、お父さんやお母さんご自身の楽しみや喜びへと変わっていくと思います。

読み聞かせの時間は短くても構いません。テレビは消して、読み手の声に集中できる環境を作り、子供たちを優先する時間にしてください。もう字が読めるようになったと思っても、文字を追うのに精一杯で、絵本をしっかりと楽しめていないことがあります。時間があれば、大きくなってもしっかり読み聞かせを続けてあげてください。

読み聞かせを聞いている子供たちは、さし絵を見るのと同時に文章を耳から聞いて、登場人物の心情やまわりの光景などをイメージしながら、本の世界を楽しんでいます。この想像力こそが、文章を読む読書の世界へもスムーズに入っていける鍵となるのです。

本書に記載されている対象年齢は目安に過ぎません。子供たちの反応を見ながら、年齢を気にせず読んでみてください。図書館の本棚には、数多くの絵本が並んでいます。ここに掲載している絵本は、ほんの一部にすぎません。「えほんの小箱」をきっかけに、たくさんの素晴らしい本と素敵な時間を過ごしてください。

神戸市立図書館子供サービス委員会

神戸市立図書館のサービスなどについては、
図書館ホームページをご覧ください。



「えほんの小箱」も掲載しています。



えほんの小箱

もう少し大きくなったら（3さい～）

初版：平成29年3月

改訂：令和4年11月

発行：神戸市立中央図書館

所在地：兵庫県神戸市中央区楠町7-2-1

TEL：078-371-3351

FAX：078-371-5046



 **KOBE**

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。